



## 自然解説員の巡視日記 その1

2017年5月6日 くもり

五色沼自然探勝路

# 現夢塚の大石は「見祢の大石」にそっくり

猪苗代町にある国の天然記念物「見祢の大石」は、磐梯山の明治の大爆発による岩なだれで南東に約5kmほど運ばれて、現在、見祢地区の民家の庭にあります。安山岩の巨岩で重さ300tともいわれています。一方、裏磐梯緑化の父、遠藤現夢<sup>げんむ</sup>が自らの墓石とした大石は、同じ明治の岩なだれで北に約5kmほど移動して、柳沼と竜沼の中間あたりに鎮座しています。この現夢塚の大石は、岩石のつくりや特徴が見祢の大石そっくりだったのです！

ともに安山岩ではありますが、正確に言うと、安山岩質の溶結火砕岩（以前の呼び名では集塊岩<sup>しゅうかいがん</sup>）です。火口から噴出した溶岩が、火口付近の既存の岩石や火山礫<sup>れき</sup>などを内部に取り込みつつ固まったもので、大小の岩片がくっついて固まったつくりをしています。

このような岩石は、火山の噴火口近くでないといけないものです。もしかしたら、両大石は噴火前は一体で、同じ火道<sup>かどう</sup>（地下深くからのマグマの通り道）を埋めた溶岩だったのかもしれませんが。それが爆発により、かたや南東に、かたや北に運ばれ、約10kmも隔てられた現在の場所にある。五色沼自然探勝路を歩き、そんな壮大な可能性が思い浮かんできました。



▲見祢の大石



▲現夢塚の大石

Welcome



## ようこそビジターセンターへ

# 春の「わくわく散歩」を実施しました！

「わくわく散歩」では、スタッフと一緒にビジターセンターから毘沙門沼にかけての遊歩道を約30分間散策し、自然解説員と歩くよさを味わっていただきます。道中では、そのとき発見した生きものや裏磐梯の成り立ちなどの解説が聞けます。

とくに、GW期間中は多くの来館者の皆様にご参加いただき、ミズバショウやクロサンショウウオの卵囊<sup>らんのう</sup>などを観察しました。

ご案内するコースは、整備された道ばかりなので、スニーカーで参加することが可能です。「わくわく散歩」はビジターセンターで随時受付けておりますので、ぜひ新しい発見をしてください。



▲実施の様子



ミズバショウ



クロサンショウウオの卵囊